

(2) 平成29年度月別の気象概況

4月	<p>上旬：前半は高気圧に覆われ晴れの日が多く、後半は前線や低気圧の影響で曇りや雨が多くなった。</p> <p>中旬：11日と17日～18日にかけて、低気圧が通過したため雨となったが、その他の日は概ね高気圧に覆われたため晴れの日が多かった。</p> <p>下旬：晴れの日が多かったが、22日と26～27日にかけて低気圧や前線の影響で雨となり、29日には上空にこの時期としては強い寒気が南下したため、一時的に雨となった。</p>
5月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間のはじめには上空に寒気を伴う気圧の谷の影響で雷雨があり、期間の終わりには前線や気圧の影響で曇りや雨の日があった。</p> <p>中旬：低気圧と高気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変わった。期間のはじめは南からの暖かい空気が入り、期間の終わりは高気圧に覆われて晴れたため、気温がかなり高くなった。</p> <p>下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間の中頃に低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあった。南から暖かい空気が入り気温の高い日が多くなった。</p>
6月	<p>上旬：この期間は高気圧に覆われて晴れの日も多かったが、上空の寒気や暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で曇りや雨の日もあった。なお、関東甲信地方は6月7日ごろに梅雨入りしたとみられる（速報値）。</p> <p>中旬：この期間は低気圧と高気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変わった。13日から14日は北東から寒気流入したため、気温が低くなった。</p> <p>下旬：この期間は梅雨前線が日本の南に停滞し、曇りや雨の日が多くなった。特に21日は、紀伊水道と山陰沖の低気圧が東北東に進んだため、大雨になったところがあった。</p>
7月	<p>上旬：期間の前半は梅雨前線や台風3号の影響により曇りや雨の日が多く、後半は高気圧に覆われ晴れの日が多くなった。</p> <p>中旬：高気圧に覆われて晴れての日が多かったが、梅雨前線の影響や、上空の寒気による大気不安定のため雨が降った日があり、特に18日にはひょうが降ったところがあった。なお、関東甲信地方は7月19日ごろに梅雨明けしたとみられる（速報値）。</p> <p>下旬：前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなり、雷を伴った日もあった。</p>
8月	<p>上旬：南からの湿った空気の影響を受け、また期間の後半は台風第5号が日本に接近・通過したため、曇りや雨の日が多くなった。</p> <p>中旬：気圧の谷や東からの湿った空気の影響により、曇りや雨の日が多くなった。</p> <p>下旬：高気圧に覆われて晴れた日もあったが、前線や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多くなった。</p>
9月	<p>上旬：期間のはじめから中頃にかけては気圧の谷や冷たく湿った空気の影響を受け曇りや雨の日が多かったが、期間の終わりは移動性高気圧に覆われて晴れの日が続いた。</p> <p>中旬：前線や台風第18号の影響を受けて曇りや雨の日もあったが、その他の日は高気圧に覆われたため、平年に比べて晴れの日が多くなった。また、気温の変動が大きくなった。</p> <p>下旬：高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過して、数日の周期で変わった。28日は前線を伴った低気圧の影響で、大雨となった所があった。</p>

10月	<p>上旬：高気圧と低気圧が交互に通過したため、数日の周期で天気に変化した。また、気温の変動が大きくなった。</p> <p>中旬：前線や北東からの冷たく湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなり、気温がかなり低く推移した。</p> <p>下旬：期間のはじめは前線や台風第21号の影響により大雨となった。中頃は移動性高気圧に覆われ概ね晴れたが、上空の気圧や谷や湿った空気の影響により雨が降った日もあった。その後、前線や台風第22号の影響により大雨となった。</p>
11月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日もあった。</p> <p>中旬：高気圧と前線を伴った低気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変化した。18日に前線を伴った低気圧が通過した後は、強い寒気が流れ込んだため、気温が低くなった。</p> <p>下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もあった。前半は寒気の影響で、気温が低くなったが、後半は暖かい空気が流れ込み、気温が高くなった。</p>
12月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。気圧の谷の通過後は寒気が流れ込んだため、日平均気温は低く推移した。</p> <p>中旬：冬型の気圧配置となり晴れの日が多くなった。寒気の影響で気温が低く推移した。</p> <p>下旬：はじめは移動性高気圧に覆われ晴れた。期間の中頃は発達した低気圧の通過により雨となった日があった。その後は冬型の気圧配置となり晴れの日が多くなったが、終わりには低気圧の影響により雪となった。</p>
1月	<p>上旬：気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日もあったが、冬型の気圧配置となり、晴れの日が多くなった。</p> <p>中旬：前半は冬型の気圧配置や高気圧に覆われ晴れの日が続いたが、寒気の影響で日平均気温が低くなった日もあった。後半は、本州付近を通過した低気圧や上空の気圧の谷の影響で雨や曇りの日が多く、日平均気温が高くなった。</p> <p>下旬：晴れの日が多くなったが、22日から23日にかけて低気圧が本州の南岸沿いを通過したため大雪となり、東京では22日の最深積雪が23cmとなった。その後非常に強い寒気が日本付近に流れ込み、東京では25日の最低気温が-4.0℃とかなり低くなった。</p>
2月	<p>上旬：期間のはじめは本州の南海上を北東に進んだ低気圧の影響により雨や雪となり、2日に最深1センチを観測した。その後は、冬型の気圧配置が続き、期間の終わりは移動性高気圧に覆われ、晴れの日が多くなった。</p> <p>中旬：冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れの日が多くなった。</p> <p>下旬：気圧の谷や湿った空気の影響により曇りや雨または雪の日が多くなった。</p>
3月	<p>上旬：低気圧と高気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変わった。8日から9日は低気圧と湿った空気の影響で大雨になった。なお、1日には日本海の低気圧が発達しながら北東へ進み、また関東付近にも低気圧が発生して発達しながら北上したため、南よりの風が強まって気温が上昇し、関東地方で「春一番」が吹いた。</p> <p>中旬：前半は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は前線を伴った低気圧が通過したため、曇りの日があった。</p> <p>下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間のはじめは低気圧や前線の影響で曇りや雨または雪の日もあった。</p>